

みんなで取り組む働き方改革

いすみ市立東海小学校校長 あおき しんや 青木 慎哉



1 学校の特徴

本校の校風をお伝えするとき、私はよく「東海っ子の外遊び」について紹介している。業間や昼休みに、児童のほとんどが外に出て、多くの教員と一緒に校庭を一杯に使って遊ぶひとは、小学校教員の醍醐味であり、見ても壮観である。人懐っこく元気で活動的な児童と、チームワーク良く、バイタリティ溢れる教職員は本校の自慢である。また、子供たちとしっかり向き合う時間をもとうと努力する職員の姿は、本校の良き伝統である。

そのような職員集団ではあるが、いわゆる「働き方」について振り返ってみると、定時を超えてからの対応が多く、ワークライフバランスに大きな課題があった。このような現状を改善するため、令和4年度より、職員一丸となって働き方改革を推進してきた。

2 常識にとらわれないアイデアを募集

令和4年度に、全職員が参加するワークライフバランス研修を開催し、みんなで課題についての話し合いを行った。そこで分析は、「仕事で自分の成長を感じ」「本音を言いあえる環境」である反面、「仕事に追われ生活の余裕がない」「教材研究、授業準備の時間がない」という回答の割合が高く、業務改善の必要性を改めて認識する結果となった。

協議では、実現可能かどうかにかかわらず、常識にとらわれない思い切ったアイデアを募集し、多くの意見を収集する機会となった。例えば、「掃除のない日を作る」といった日課時程の改善案や、「SOSコーナー」「提出物

締め切りコーナー」「教材データ・指導案の保管場所」を設置したいという意見があった。さらには、「朝の始まりを遅らせる」「業務が煩瑣な登校班の解消」といったなかなか思い切った案もでてきた。これらのアイデアを集約し、教育効果への影響や実効性を勘案しつつも、実現可能なものから具現化を目指すこととした。



【ワークライフバランス研修のようす】

3 具体的な取組について

(1)働き方をデータで見える化

まずは実態把握のため、職員の勤務状況を数値化した。時間外在校等時間の平均を県の調査結果と比較したほか、月ごとの変化から、年間を通した繁閑を明らかにした。

さらに、個票（職員個々の平均出退勤時刻、曜日ごとの傾向、月ごとの変化、経年変化等）を配付し、自らの勤務状況を把握することで、自分の働き方に関する傾向に気づき、仕事のペースを工夫していくための資料とした。在校等時間についてお互いに話題にする場面が増え、繁閑の見通しを持った仕事をする上で参考になったといえる。

(2)仕事をシンプルにわかりやすく

長年積み重ねられてきた業務を、「シンプルでわかりやすい」をコンセプトに整理した。

①紙文化からの転換

- 保護者への発出文書は電子化・メール配信とし、印刷時間・紙を節約（ただし保健関係文書等の重要な文書は紙媒体でも発出）
- 配布依頼のあったチラシは、1ファイルにPDF化し、毎週月曜日にメール送信
- 保護者アンケートや学校評価はWebを活用（記名式に変更することで回答率向上）
- 地図の電子化（国土地理院の「地理院地図」を活用し、児童の住所・通学路・登校班・スクールガードの位置をデータで一括管理）
- 職員会議資料の電子化

②わかりやすさを追求

- 曜日ごとに複雑だった下校時刻を整理（A～Cの3パターンに整理し、職員・保護者・児童にもわかりやすく変更して提示）
- サーバのフォルダ階層を整理（業務の項目、内容の詳細、年度の3階層程度に整理・共有し、必ずサーバ内に保存して共有）
- 出退勤管理を職員室入口のPC入力に変更（時間外45時間までの残り時間を表示し、在校等時間をリアルタイムで自己管理）
- 机上整理を徹底（目的の資料を10秒以内に取り出せるようファイル整理を励行）

③時間削減のための取組

- Teamsで欠席連絡を自動化
- 朝の打ち合わせを全て廃止
- 業務連絡用ツールを複数用意（職員室入口の連絡ボードとTeams、時間外の連絡があればLINEWORKSを活用）
- 職員室内に大型モニタを設置し、週予定表を提示（教務の業務を削減）
- 学校徴収金の自動引落とし（業務量削減のため、定期引落しは年2回のみに調整）

4 成果と課題

集まってきた情報・試案を集約し、その一部を実現できたことで、業務改善に係る機運がさらに高まった。予見できる課題に足踏みせず「走りながら考える」スピード感と、「できるためにはどうすればよいか」をポジティブに話し合うことで、思いもよらない新しいアイデアに何度も遭遇できた。その結果、令和4年度は、前年度比で一人当たり年間約97時間を削減する成果となった。

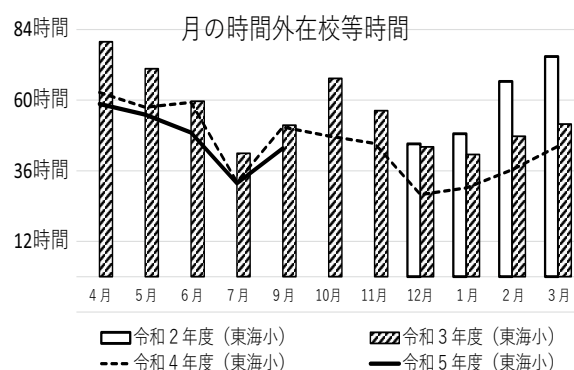
この削減時間の一部は、今年度より職員主体で発足した研修組織「東海塾」で、多様な研修に効果的に活用されている。

なお、グラフのとおり、時間外在校等時間が多い4月の業務改善が大きな課題である。

5 おわりに

働き方改革を進める上では、効率的な働き方をいかに習慣化できるかが鍵である。例えば、退勤前5分間の机上整理・ファイル管理だけで、働き方は劇的に変わる。本校では、「出退勤チェック10」と題し、校務支援システム入力のタイミングや机上の整理など、退勤までにやるべき10項目を提示しているが、特に若手職員に対しては、習慣化するまで粘り強く支援し、具体的なアドバイスを送ることが大切だと考えている。

今後も自由な発想で楽しみながら、みんなで力を合わせて、更なる業務改善に努めたい。



【東海小学校の時間外在校等時間の変化】